

月26日

謹啓 時下益御清

穆おわたりならるべくきんがに御渡可被成奉欣賀たてまつり候。然しかれば去る十月十七日附尊書被投とうぜられ拝誦つかまつり仕候。折悪敷過あしく日来頻々ひんびん神戸へ

参り滞在致し候

為め、荏苒じんぜん御返事延引誠きいにそむきに背貴意候段幸くだされに御海容被下度候。扱さて御尋ね合せの

「望春」は「辛夷」の一

名にて此辛夷は和名

「いぶし」と称し喬

木（小柄の）に御坐候。此

「こぶし」は木蘭并ならびに
ハクモクレン

玉蘭の属にて我邦

にては諸州の山地に自生

し、東京附近の地にも

これあり有之。春早く葉に先

だちて可なり大なる白

花を枝上に開き香氣

これあり有之候。花了りて新葉おわ

出で申候。花形并ならびに葉

形略ほぼ左の如くに御坐

候。

*

*

先は乍延引えんいんながら右御返事
迄かくのいづく如此に御坐候

拝復

大正七年十一月二十六日

牧野富太郎

緒方益井様

ぎよくとうか
玉榻下

なおも
尚若し実物御入用に

御坐候へば、来春花期

に花枝御廻し申上べく

候へば、御用捨なく御申もうし

こしくだされたく
越被下度候。